

◆ 国内外問わず、近現代文学の名作を幅広く収録

◆ 文学史上よく知られる作家の隠れた名作から、知られざる作家の優れた傑作までを網羅

◆ 300作を超える作品数、150名を超える著訳者数

◆ 季節の年中行事や動植物、昔から伝わる暮らしの知恵などを描いた歳時記としても

◆ 節目の月や記念の月を言祝ぐ、言葉の贈り物に



体裁

B6 変型判 / 上製 / 美麗クロス装 (※初版限定) / 箔押し

頁数

各巻平均 280 頁

予価

本体 2800 円 + 税

装丁

岡本洋平(岡本デザイン室)

全巻購読者特典案内

《12か月の本》全12巻を全巻購読された方々に、もれなく特典「ことばの缶詰」を無料で差し上げます。下記の方法でご応募ください。

【応募方法】

《12か月の本》各巻の帯にある応募券を切り取り、全巻分の計12枚を郵便はがきに貼って、ご住所・ご氏名・電話番号を明記の上、「国書刊行会 カンヅメ係」へお送りください。応募締切は最終回配本の6か月後とします。

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15

TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

<https://www.kokusho.co.jp>

小社の刊行物は注文制です。お近くの書店にお申込みください。

12 か月の本

西崎憲 編

《全12巻》



か月のうちの〈ひと月〉をテーマに古今東西の小説・詩歌・随筆を集めたアンソロジー。四季をあじわい、あの作品といま同じ季節を生きるよろこびをつくる本。シリーズ全12巻。

編者のいとはば

アンソロジースト
西崎憲

たとえばこの十二冊は十二個の箱と喩えられましょう。箱のなかにはさらに複数の箱が収められています、それぞれに空や川が蔵しまわれています。

たとえばこの十二冊は十二の庭であると申せましょう。ある庭には美しい四阿あずまやがあり、つぎの庭では緑の天蓋の小径がひっそりとあなたを待っています。

そしてなによりこれらは十二の島であり諸島です。

一月の島から九月の島へ、冬の島から夏の島へ、時代と空間を軽い小舟で渡ってください。

文の至福、蒐集の至福へようこそ。

第1回配本

季春

／2025年3月刊行予定

『4月の本』

ISBN：978-4-336-07737-0

太宰治「春昼」
北川冬彦「四月」
獅子文六「四月の蕾」
日夏歌之介
「鷗外先生の墓に詣づるの記」
堀辰雄「春日遅々」
中井英夫「牧神の春」
村山槐多「四月短章」
鎌木清方「褪春記」
渡辺温「四月馬鹿」

吉田健一
「イギリスの春と春の詩」
T・S・エリオット／吉田健一 訳
「死人の埋葬」(荒地より)
尾崎一雄
「美しい墓地からの眺め」
宮沢賢治「山男の四月」
水野葉舟「かたくり」
ロアルド・ダール／田口俊樹 訳
「ギャロッピング・フォックスリー」

ギンスターヴ・カーン／
永井荷風 訳
「四月」
久生十蘭「春雪」
片山廣子「まどわしの四月」
泉鏡花「若菜のうち」
山川方夫「博士の目」
坂口安吾「桜の森の満開の下」

『5月の本』

ISBN：978-4-336-07738-7

尾形亀之助「五月」
須賀敦子「アスバラカスの記憶」
岩本素白「寺町」
堀辰雄「あいびき」
三島由紀夫「美神」
寺田寅彦「五月の唯物観」
鎌木清方「若葉」
マッシュモ・ボンテンベルリ／
岩崎純孝 訳
「太陽の中の女」
小山いと子「壁の中の風景」
谷川俊太郎「五月のこゝろ」

三橋一夫「夢」
吉田健一「五月の鯉」
久坂葉子「入梅」
吉江喬松「五月雨」
萩原朔太郎「雲雀料理」ほか
鈴木三重吉「金魚」
吉屋信子「馬と私」
江戸川乱歩「日記帳」
岡本綺堂「栗の花」
村山槐多「五月短章」ほか
芥川龍之介「お富の貞操」
野上弥生子「五月の庭」

スワヴェオーミル・ムロージェック／
沼野充義 訳
「笑うてぶ」
川端康成「五月の幻」
石垣りん「この道」
宇野浩二「一と踊」
レオノーラ・カリントン／
澁澤龍彦 訳
「最初の舞踏会」
尾崎翠「こおろぎ嬢」

『6月の本』

ISBN：978-4-336-07739-4

堀辰雄「雨後」
谷崎潤一郎「恐怖」
西崎憲「縦むすびのほどきかた」
北園克衛「夏の室」ほか
安部公房「樺」
マーク・トウェイン／
柴田元幸 訳
「ワシントン將軍の黒人従者」
石川欣一「可愛い山」
中谷宇吉郎「霧を消す話」
茨木のり子「六月」
H・V・ホーフマンスタール／
小堀桂一郎 訳
「山の中の村」

宮本百合子「二つの出来事」
二葉亭四迷「入露記」
ゾワディスワフ・レイモント／
金子佳代 訳
「ポーランドの春」
岡本かの子「小町の芍薬」
泉鏡花「紫陽花」
アルチュール・ランボー／
中原中也 訳
「物語」
M・R・ジェイムズ／
紀田順一郎 訳
「真夜中の校庭」
遠藤周作「恐怖の窓」

山川方夫「雀んだ窓」
中野重治「司書の死」
北原白秋「六月の花」
岡本綺堂「蟹」
石垣りん「無題」
尾崎翠「詩「嵐の夜空」」
石井桃子「初姉嫁ぐ」
シャルル・ルイ・フィリップ／
山田稔 訳
「お隣同士」

第2回配本

季夏 2025年6月刊行予定

「7月の本」 ISBN：978-4-336-07740-0
ホルヘルス・ボルヘス
「あまたの叉路の話」
梅崎春生「魚の卵」
豊島与志雄「電車停留場」
尾形亀之助「七月の朝」
尾野十三三「十年後の東京」
フアーシニア・カルフ「キートン植物園」
久生十蘭「黄泉から」

「8月の本」 ISBN：978-4-336-07741-7
宮本百合子「鏡の中の月」
北原白秋「影」
堀辰雄「絵はがき」
久生十蘭「白蜜糖」
萩原朔太郎「山屋」
岡本綺堂「穴」
吉田統二郎「八月の星座」
太宰治「トカトシ」

山川方夫「ジャンの新盆」
ブルノ・シュルツ「ネムロド」
中谷宇吉郎「八月三日の夢」
永井荷風「蟲の窟」
……ほか

「9月の本」 ISBN：978-4-336-07742-4
寺田寅彦「天災と国防」
有島武郎「溺れかけた兄妹」
岡本綺堂「麻畑の一夜」
アン・ドゥ・ノアイエ「九月の果樹園」
島崎藤村「食堂」
片山廣子「天へ小へび」
鈴木三重吉「月夜」
木下実郎「市街を散歩する人の心持」
太宰治「親友交歓」
……ほか

「10月の本」 ISBN：978-4-336-07743-1
高祖保「垂簾」
サキ「開いた窓」
岡本綺堂「私の机」
宮沢賢治「十月の末」
岩本素白「雨の宿」
小山清「落穂拾い」
石川三四郎「馬鈴薯からトマト迄」
……ほか

「11月の本」 ISBN：978-4-336-07744-8
マセル・シュオップ「天靴」
岩本素白「こがらし」
山田花袋「丘の上の家」
……ほか

「12月の本」 ISBN：978-4-336-07745-5
尾形亀之助「十月の路」
林芙美子「黄昏」
寺田寅彦「浅草紙」
久生十蘭「野萩」
岡本かの子「私の日記」
H・G・ウェルズ「水島の卵」
渡辺温「十年後の十字街」
芥川龍之介「年末の日」
太宰治「十二月八日」
……ほか

「1月の本」 ISBN：978-4-336-07746-2
坂口安吾「開幕修行」
寺田寅彦「この正月」
伊藤宏子夫「浅草詣」
夏目漱石「山鳥」
佐々木邦二「年の計」
渡辺温「嘘」
……ほか

「2月の本」 ISBN：978-4-336-07747-9
山川方夫「ある幸福」
永井荷風「二月一日」
太宰治「ツヨシンの妻」
……ほか

「3月の本」 ISBN：978-4-336-07748-6
中谷宇吉郎「立春の卵」
片山廣子「樺火節」
中谷宇吉郎「米粒の中の仏様」
松永延造「リア人の孤独」
宇野浩二「晴れたり君へ」
村山槐多「二月」
坂口安吾「五占師の前へ」
菊池寛「早一郎の恋」
堀辰雄「雪の上の足跡」
……ほか

「4月の本」 ISBN：978-4-336-07749-3
芥川龍之介「春の夜は」
板倉勝宣「春の櫓から帰つて」
中谷宇吉郎「一駅の一夜」
石川欣一「飢えは最善のソースか」
岡本綺堂「雪の一日」
岡本かの子「兄妹」
山本周五郎「この木戸を通つて」
……ほか

収録案内内容は一部変更の可能性が
あります。あらかじめご了承ください。